

令和２年度

学校評価報告書

帝塚山幼稚園



学校法人帝塚山学園

令和２年度学校評価について

帝塚山幼稚園は、令和２年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、保護者を対象としたアンケート結果、育友会等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山幼稚園
園長　塚本　真紀

令和２年度　学校評価

１．総括

学　校　名	帝塚山幼稚園
建学の精神	「社会に有為な人材を育成する」
本園の重点目標 （教育目標）	「生きる力の基盤と学びの基礎の育成」 “一人ひとりの個性を大切にし、気品と礼節のある子ども、強健な身体と豊かな感性、自律的精神をもつ子どもを育成する。”
前年度の成果と課題	［成果］ 本園独自の四季の自然とのふれあいを主軸とした教育カリキュラムにより園児一人ひとりの個性を尊重し、豊かな感性と知性、自己肯定感を育む教育を実践した。 ［課題］ 園児一人ひとりの個性を尊重し、主体的な学びを実践する教育を追求していく。園児が遊びを通して健康的な心身を育み、豊かな感性と知性を育むことができるよう、今後も教員が子どもの内面理解に努める。

本年度の重点目標	具体的目標	総合評価
１．保育内容の充実と 特色ある保育の実践	①　幼稚園教育活動（教育目標）の共有化 ②　自然教育の推進・質の向上 ③　道徳性の芽生えと豊かな情操を培う活動の推進 ④　強健な身体を養うための教育の実践 ⑤　子育て支援事業の充実強化	A 保育内容の充実と特色ある保育の実践に関しては、四季の自然とのふれ合いを主題にした自然教育を継続的に実践し、充実させた。本園独自の教育課程による活動に対しては、コロナ禍であっても教員の学びを止めないよう、毎月の園内研究会で教員の指導力向上や子どもの理解に向けて研鑽を積んできた。今年度の教員一人ひとりの学びを次年度も継続し、保育の専門性を高め、子どもの内面を理解することに繋げたいと考える。 ４年目になる園児の心身の健やかな成長を目的とした食育活動を、併設の帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科の協力を得て、各家庭と連携しながら今年度も継続実施し、充実させることができた。 コロナ禍における幼稚園での「新しい生活様式」を園児に身につけさせることが今年度の園生活の中心にあり、そんな時期だからこそ学べる人への思いやりや感謝の念を大切にするための教育活動が子どもたちの道徳の芽生えを培うことに繋がった。 ただ、幼稚園、２歳児教育ともに、募集定員を充足できなかったことを重く受け止める必要がある。今後も幼稚園の特色ある教育とともに、総合学園の強みである小学校や大学との教育連携をより一層周知していかなければならない。 帝塚山小学校への内部推薦進学制度により内部進学の希望者は増した。今後も小学校教育への円滑な接続ができるよう、幼小連携カリキュラムの実施や教員間の研究交流を積極的に実施するように努める。 幼児教育・保育の無償化により、今後さらに「保育の質の向上」が求められる中、帝塚山幼稚園らしさを大切にしながら、外部者に明確なアピールポイントを示すこと、そして保護者の期待にも応えられるように努める。 以上、募集に課題を残すものの総合評価としては、Aとする。
２．教育連携の強化	①　小学校教育との円滑な接続強化 ②　各学校との積極的連携	
３．教員の意識改革・ 行動改革推進	①　研究・研修の推進・充実 ②　学校評価の実質化と教員評価の実施推進 ③　幼稚園リスクの対策強化 ④　財政健全化策の強化	
４．園児募集活動の強化	○　園児募集・広報活動の強化	

２．自己評価

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
教育目標	教育目標の明確化	建学の精神と幼稚園教育要領の精神を踏まえ､園の教育理念･教育方針にしたがい「生きる力を育み、豊かな心を育てる」という教育目標を設定、周知のうえ実行する。	A	A	４月の職員会議において、体験型保育による子どもたちの学びの基礎作り、基礎体力作りに努めることを年間目標として設定し、確認したうえで、全教員が共通理解のもと、本園独自の「自然を主軸にした四季に応じた保育活動」を実践した。	できるだけ早期に年度の具体的な教育目標を設定し、教員間で共通理解を図り、子ども主体の教育を実践する。
	教育目標の周知	園の教育目標を保護者に各学期ごとに周知を図る。	A		園の教育目標を、年度初めの保護者会、３学期末の保護者会で伝えるとともに、月ごとに掲げた目標を、園便りを通じて周知した。	今後も、「園便り」や「クラス便り」、「てづキッズ便り（園長室便り）」を通じて周知する。
指導計画の作成	指導計画の充実	教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成する。	A	A	進捗状況に応じて、修正を加えながら年間指導計画を確実に実行した。	今後も、園児の実態に即して修正ができるよう柔軟性のある指導計画を作成する。
	五感教育の推進	園外での直接体験や本物体験を含め五感教育に取り組む。（各学期複数回）	A		教育内容に即した園外保育を安全に実施し、直接体験による五感教育の実践に取り組んだ。	今後も教育内容に即した本物体験を、意識して積極的に取り入れていく。
	自律を促す指導の推進	規則正しい生活習慣の定着と道徳心の養成に向けての指導を定期的に行う。（年10回実施）	A		年間を通じて、園児の実態に応じた指導を行った。また、コロナ禍で、幼稚園での「新しい生活様式」を正しく理解し、身につけられるような指導を行った。	計画と修正を繰り返しながら、今後も子どもや園生活の実態に即した指導を行う。
研修	研究保育の実施	外部講師を招聘し、計画的に園内研究保育を行う。（年10回実施）	B	B	２学期は園内の教員間での研究会を実施し、３学期には外部講師を招いた園内研究保育を年間３回実施した。	今後も研究保育を継続実施し、研究課題達成に向けて研鑽に努め、教員一人ひとりの教育力の向上を目指す。
	公開保育の実施	公開保育を実施し、外部者からの評価を教育の現場に活かす。（年1回実施）	C		幼児教育従事者の参加のもと、外部講師を招いた公開保育研究会はコロナ禍で、計画、実施できなかった。	次年度以降の公開保育の実施を目標に、更なる園教育の充実と発展を図る。
	研修成果の共有	各学期に参加した外部研修の成果を内部研修などで発表し、教職員の共通理解を図る。（延べ18回参加）	B		各教員がオンラインによる研修に複数回参加し、それぞれが得た知見を内部研修等で共有し、教員のスキルアップに努めた。	今後も教員全員が幅広い内容の研修機会をもてるように計画し、成果を共有できるようにする。
教員評価	教員評価の推進	教員の自己評価の実施と教員の園長による個別面談の実施。	A	A	教員の自己評価を前期、後期の２度実施し、結果を全教員間で共有し、個人や園の課題を再確認した。	今後も教員の自己評価を実施し、個人の課題等については園長、園長補佐との面談により明確にしていく。
教育連携内部進学	小学校との連携推進・内部進学の充実	帝塚山小学校児童との交流を深め、幼小連携の体制作りに取組み、内部進学を推進する。（内部進学率80%）	B	B	小学校教員によるEnglish Timeを計画通り実施した。年中児の小学校教員による園内での体験授業を実施し、保護者の帝塚山小学校への関心に繋がった。内部出願率は約77%で、昨年度より上昇した。	帝塚山小学校との交流機会を計画、実施することで、保護者の小学校教育への理解を深めて頂き、内部進学を推進していく。
	大学との連携推進	帝塚山大学各学部・学科より有効な情報提供や指導・助言を受け、教育現場に活かすとともに、大学生と様々な交流活動を行う。（複数回実施）	A		帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科学生による園児と保護者に向けての食育活動を実施した。また同学部子ども学科の学生がインターンシップを通して保育現場の体験と園児との交流活動も行うなど教育連携に取り組んだ。	今後も園児やその家庭の実態にあわせて大学との教育連携に積極的に取り組み、園児、学生が共に学び合える機会を持てるようにする。
	各学校との情報共有	各学校の情報を共有することに努める。特に小学校とは教育内容を相互理解できるようそれぞれの園内（校内）研究会に参加する。（研究会への教員参加数）	C		幼稚園、小学校の園内（校内）研究会に相互参加し、意見交換をする計画が十分でなかったため、実施に至らなかった。	各学校の情報を積極的に得ると同時に、特に小学校には幼稚園児の成長段階への理解を深めてもらうため、小学校との教育連携を密にし、意見交換する必要がある。
組織運営	教育目標の共有	園長の指導のもと、教育目標の周知を毎学期ごとに行う。（年３回実施）	A	A	月１回以上の職員会議でその都度教育目標の周知を	具体的に教育目標を運営に生かしていく方法について、さらに検討する必要がある。
	組織体制の整備	園務を教務部、入試広報部、環境部に分掌し、適切な運営とその責任体制を整備する。	A		園の実態に即した園務組織を整備し運営を行い、年２回の中間報告を実施し、全教員間で内容を共有した。	役割と分掌についてより園の実態に即した整備について検討する。
安全管理	学校安全計画の立案・実行	安全管理体制の構築のため学校安全計画を立て、実行する。（複数回実施）	A	A	令和２年度学校安全計画に沿い、２歳児教育園児も含めて避難訓練を合計４回実施した。また、学園前キャンパスの一斉避難訓練も実施した。	これからも幼稚園、２歳児教育、全園児の実態に応じて内容や実施回数についても検討する。
	危機管理マニュアルの整備	日常の安全点検・月1回の園内安全点検を充実させ、危機管理マニュアルの周知を行う。（年10回実施）	A		環境部により月１回、年12回の安全点検を行った。	今後も定期的な施設設備安全点検を行い、適切な処置を行う。
保健管理	保健機関との連携	地域保健・医療機関との連絡体制を整え、各学期1回程度の指導を受ける。（複数回実施）	A	A	地域保健・医療機関との連携を図りながら、保健管理を行った。	組織的な連絡・協力体制を構築する。
	学校保健計画の立案・実行	学校保健計画を作成し、確実に実施する。	A		令和２年度学校保健計画通りに実施することができた。新型コロナウィルス感染拡大に伴い、その実情に合わせて園児への保健指導をよりきめ細やかに実施した。	これからも幼稚園、園児の実態に応じて内容を見直し、柔軟に実施していく。
	保健管理の充実	園児の健康管理や怪我等に速やかに対応するとともにアレルギーについてのマニュアルに沿い実施する。	A		全職員を対象にエピペンについての確認とやＡＥＤの取扱講習を行い、健康管理の意識を高めた。	今後も継続実施する。

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
情報管理	個人情報の管理徹底	個人情報の保護、管理を周知徹底する。	A	A	園児の個人情報を適切に保護・管理した。また、職員間でも詳細な確認作業を行った。	今後もパソコンによる業務を慎重に行うなど、個人情報管理について教職員の意識向上に努める。
	適正な情報の保管	公文書を安全に管理、保管する。	A		職員会議等で、園内外の情報を共有するとともに、情報管理の徹底を図った。	今後も徹底した管理と保管について励行が必要である。
保護者との連携	育友会との連携	育友会と互いに協力し合うとともに、連携を緊密にし、育友会主催行事を実施する。（複数回実施）	A	A	育友会行事は実施できなかったが、園児へサプライズプレゼントを提供して頂くなど、コロナ禍で制限された中でも保護者との連携を深めることができた。	今後も密に連携していく。
	保護者ニーズの把握	保護者アンケートを実施し、保護者のニーズの把握に努め､要望や苦情に適切な対応を図る。	A		学期末の個人面談で受けた保護者からの要望等について担任と園長補佐が中心となり改善を図り、内容によっては全教職員間で共有した。又、年度末に保護者アンケートを実施した。	保育内容について高い満足度は維持できたので、今後も保護者に向けて丁寧で柔軟な対応を行う。
情報提供	教育情報の発信	園便り等で幼稚園の情報や教育内容を、毎月１回発信する。（年10回発信）	A	A	毎月１回、年12回の「園便り」に加え、各学期ごとの「てづキッズ便り」を通して詳細な情報発信に努めた。	今後も「園便り」と「てづキッズ便り(園長室だより)」の発行を継続実施する。
	きめ細かな情報提供	「クラス便り」を発信して、情報を共有する。（週２回発信）	A		担任からのお知らせやお願いを「クラス便り」に盛り込んで年間50回以上発信した。	今後も「クラス便り」の発行を継続実施し、きめ細やかな情報発信に努める。
	ホームページの活用	幼稚園教育や活動など、ホームページの更新に努める。（週１回以上更新）	A		２歳児教育、幼稚園とも保育日は、ホームページのニュース&トピックスを毎日更新し、園生活をより分かりやすく発信した。	園の日常の保育活動についての情報を今後も効果的に発信するように努める。
子育て支援	子育て支援の充実	子育て支援講座の年1回の定期的実施や保護者の子育てに関する相談窓口を設ける。	A	A	子育てに関する相談窓口を明確にし、きめ細やかに対応した。	今後も保護者のニーズに応えるべく、状況に応じて子育て支援講座を実施する。
預かり保育	預かり保育の充実	園児、保護者の実態を見ながら、通常保育期間に加え、長期休業中についても年間20日以上、預かり保育を行う。（実施日数）	A	A	預かり保育は、コロナ禍であっても園児の安全を最優先にして、保護者のニーズに応えるべく年度末まで実施した。また長期休業中の預かり保育もできる限り実施した。	今後もこども学科の学生ボランティアの協力も得ながら保護者のニーズに応えるべく預かり保育を継続実施する。
園児募集・広報	広報活動の強化	体験保育や発表会等の広報を、子どもや保護者に効果的な案内を行い、幼稚園に対する親密感を感じていただく。（参加者数延べ90人以上）	A	B	２歳児教育の説明会は保育の公開も含め密を避け、安全に留意し実施した。また幼稚園２次募集や２歳児教育の募集に係る個別の体験保育や園見学を実施し、きめ細かな広報活動を行った。	今後も体験保育の内容と時期について吟味していく。教育連携課の協力を得ながら、更に効果的な広報活動の内容を検討する。
	外部入試説明会への積極参加	外部の入園説明会に参加する。（３～５回以上の参加）	B		コロナ禍で限られた中での外部説明会には参加し、出願につなげる努力を行った。	幼児教室等との連携も交えて積極的に情報を得られるように働きかけていく。
	個別見学への対応	各募集行事についての情報を適時に更新するとともに、園案内の送付も継続的に行う。また、年間通じて個別の園見学を実施する。（参加者数延べ80人以上）	B		ホームページで個別説明会や体験保育を案内し、参加者にきめ細やかな園案内や教育内容の説明を行った。途中編入者もあったが、募集定員には充足できなかった。	今後も個別の対応を丁寧に実施し、募集人員の充足につなげていくように努める。
学校評価	学校評価の推進	学校評価を実施し、その結果により教育活動、学校運営の改善工夫に継続的に取り組む。（総合評価「A」確保）	A	A	平成元年度学校関係者評価を実施し、総合評価「A」を確保するとともに、その結果を可能な限り数値化し、令和２年度園運営や教育内容の見直しに役立てた。	学校関係者評価を適切な時期に継続実施し、その結果をもとにして、今後益々園運営や教育内容の改善に努める。
学校運営	予算執行の適正化	経費のうち、特に印刷費の節約を図る。（印刷費10%節減）	A	A	策定された「財政健全化計画（小学校・幼稚園編）」について全教職員が理解し、物件費の削減に努めた。	今後も教職員一同協力して、物件費節約に努める。

評価は４段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

３．学校関係者評価

意　見	改　善　方　策
① 四季の自然とのふれあいを主軸とした教育カリキュラムは評価できる。具体的に示された稲刈り体験をしたことが良かった。	① 今後も本園独自の自然教育を継続的に実践し充実させていく。
② 幼稚園の教育方針を保護者に理解してもらうと同時に、保護者が幼稚園に求めるものもわかるという、相互理解が必要ではないか。	② 幼稚園の教育方針を職員間でしっかり共有し、保護者と保育参観やクラス会での交流や、クラスだより、てづキッズ便りなどでも発信していきたい。
③ コロナ禍で様々なことが出来なかったが、そこから学べたことも多かった。コロナを前向きに捉え、学んだことを明確に今後に繋げることが大切である。	③ コロナ禍で過ごすことにより、幼稚園での活動を振り返ることが出来た。今後も子ども主体の教育を実践できるよう研鑽に努めたい。
④ 同じ敷地内に幼稚園から大学までが揃っているメリットをどんどん生かしていかなければならない。学園内の教育連携をより具体的に示し、可視化していくことでアピールすることが、募集定員充足に繋がるのではないか。	④ 募集定員を充足させるために、今後も幼稚園から大学までが同一キャンパスにある教育環境を大きなメリットとしてアピールしていきたい。その為に小学校、大学とも教員間の相互理解をより深め、学園内の教育連携をさらに強化していき、その内容を可視化することで保護者や外部者に周知していきたい。